



建築人

10

2016

大阪ホンマもん



建築人

10
2016

目次

2	大阪ホンマもん
4	インフォメーション・事業案内
6	動静レポート
7	Topics
8	特別寄稿 箕面市 岡本 秀 鉄道延伸と新駅周辺のまちづくり
10	Gallery 建築作品紹介 アシックスヴィラサーナ (ASICS Villa Sana) 設計 竹中工務店 施工 竹中工務店 K コンプレックスビル 設計 大西憲司設計工房 施工 宍粟住建 箕面の家 設計 井上久実設計室 施工 西友建設
13	記憶の建築 松隈 洋 日本住宅公団鷺宮団地 一九五七年 公団草創期のテラスハウスの試み
14	建築の射程 高場 秀樹 「TSURUMI こどもホスピス」における活動について
16	ひろば『今、自治体のアツイところ！』熊取町 馬場 高章 企画展 大地震、命を守るために今できること
18	理事会報告 編集後記

変化する建築士会

大阪府建築士会副会長 上田茂久



大阪府建築士会は建築士のネットワークの中心にあるキーステーションを目指し、建築士に対するサポートと社会貢献活動を二本柱として活動しています。今年四月の熊本地震の際には、被災地の建築物応急危険度判定活動に、多数の会員の皆様が、ボランティアとして参加の意思表示を下さいました。残念ながら、被災地の受け入れ態勢が整わず、実行には至りませんでした。が、今後も応急危険度判定士の育成ならびに支援活動等社会貢献活動を幅広く行っていきます。公益社団法人に移行し、三年半が過ぎ、このような活動も、一歩ずつ軌道に乗ってきています。また、財政面においても会員減少による年会費の減少は否めないものの、耐震診断評価業務、定期講習等での財政確保、事務経費等支出の削減を行い徐々に安定してきています。

一般に業務を円滑に進めるための手法として、PDCAサイクルというものがありません。これは「Plan (計画) Do (実行) Check (評価) Action (改善)」の四段階を繰り返して行うことにより、業務をどんどん良い方向に導く手法です。企業はもちろんのこと、建築士会のような団体も、社会の変化に対応できるPDCAサイクルが必要です。常に、現状評価をおこない、問題があるものは改善していき、それを踏まえた計画、実行を行うことで時代に即した組織となります。大阪府建築士会は、さらに変化していきます。会員の皆様におかれましては、新しい情報、タイムリーな研修をHP等で確認いただき、今以上に活用いただければ幸いです。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

今も、大阪市西区江戸堀付近は近代建築が多く残っている。以前に取り上げた日本基督教会大阪教会のすぐ傍に瀟洒な近代建築が建っている。今回取り上げるのは「江戸堀コダマビル」(旧児玉竹次郎邸)だ。

この建物は、西区で綿布商を営んでいた児玉竹平商店の児玉竹次郎氏の邸宅として建設された。設計・施工は、当時ヴォーリズ事務所の仕事なども手掛けていた岡本工務店(設計 山中茂一氏)が担当した。建築物規模は地下一階、地上三階建てで、構造は鉄筋コンクリート造。竣工は昭和一〇年(一九三五年)で、同年竣工建物では旧大阪証券取引所がある。

間口は八m程度と狭小ではあるが、建物の庇に赤いスパニッシュ瓦を用いた目を引く外装は、典型的なスパニッシュスタイルで装飾が施され、国の登録有形文化財に指定されている。現在、本格的な音楽レッスン室を備えたテナントビルとして活用されている。この道を通る度、この建物をみて振り向くのは私だけではない。

建築人 10 2016

監修	公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会		
編集	建築情報委員会『建築人』編集部		
委員長	飯田英二		
編集人代表	荒木公樹		
編集人	河合哲夫	黒川祐樹	
	中江 哲	橋本頼幸	
	丸子勇人	牧野隆義	
事務局	山本茂樹	母倉政美	
印刷	中和印刷紙器株式会社		

JIA建築家大会2016大阪 笑都物語

10/26～29

JIA全国大会を大阪で開催します。

日程 10月26日(水)～29日(土)

- ・建築家のあかりコンペ 2016公開二次審査会、表彰式・ミニパーティー 審査員:千葉学
 - ・「船場」に生きる近代建築 山形政昭
 - ・シンポジウム1 文化都市の復権大阪から全国へ 木津川計・香山壽夫・倉方俊輔
 - ・ストック活用を環境・保存・災害・まちづくりの視点で考える 井口直己・近角真一・穴鹿正春ほか
 - ・シンポジウム2 社会の改革 ソーシャルイノベーションとしての建築家 吉村洋文・伊東豊雄・工藤和美・竹原義二・兼松佳宏
 - ・シンポジウム3 生きる街 市民が担うまちづくり 桂歌之助・青木豊彦・倉田哲郎・関純子・古谷誠章
 - ・エビログ これからの街 竹原義二・木村博昭・古谷誠章
 - ・フォーラム「生きた建築」って何?～「イクフェス大阪2016」に向けて～ 高岡伸一・倉方俊輔
- 会場 大光電機ショールーム、綿業会館、大阪市中央公会堂、大阪美術倶楽部
- 詳細・参加登録は大会ホームページまで
http://jia-osaka.org/

第1回石井修記念サロン

11/3

「石井修記念サロン」第1回目のご案内です。

- ゲスト 吉村篤一(建築環境研究所主宰)
- 日時 11月3日(祝日) 14:30～16:30
- 会場 回帰草庵 西宮市甲陽園目神山町
- 定員 25名(予約制) 申込先着順
- 参加費 1,000円
- 申込 住所、氏名、所属、連絡先を明記の上、ハガキまたはFAXまたはメールで下記宛送付
石井智子／美建設事務所
〒633-0091 桜井市桜井770-1
Fax.0744-48-3155
E-mail bikentomo@nifty.com

自立循環型住宅設計講習会

11/24

- 一般的に入手できる手法や技術の組み合わせで、住宅のエネルギー消費を50%削減することを目指した「自立循環型住宅」講習会です。
- 日時 11月24日(木) 10:00～17:00
- 会場 大阪府建築健保会館5階会議室
大阪市中央区和泉町2-1-11
- 定員 100名(先着申込順)
- 受講料 会員12,000円 会員外15,000円
(テキスト代、消費税含む)
- 申込締切 11月17日(木)(定員になり次第締切)
- 主催・問合 (一財)大阪住宅センター
住宅評価保険部
Tel.06-6253-0238

大阪市西地域 築港の近代建築と煉瓦倉庫見学会

10/15 CPD3単位(予定)

- 大阪市の現役の渡し船の一つ「天保山の渡し」で此花区・桜島から天保山に上陸して、築港に今も残る近代建築と煉瓦倉庫群を大阪歴史博物館主任学芸員酒井一光氏の解説と共に見学します。
- 日時 10月15日(土) 13:30～17:00
- 集合 JRゆめ咲線「桜島駅」改札口前
- 募集 40名(申込先着順)
- 参加費 会員1,000円 会員外2,000円

「BIM活用の最前線」講習会・シンポジウム

10/28 CPD2単位(予定)

- 今、建築業界で注目のBIMを活用していただくため、講習会・シンポジウムを開催します。
- 日時 10月28日(金) 18:00～20:00
- 会場 (株)内田洋行 2階会議室
大阪市中央区和泉町2-2-2
- 基調講演1(BIM活用の最前線)
講師 金沢工業大学教授 下川雄一
- 基調講演2(BIMの活用と方向性)
講師 (株)大林組 中嶋 潤
- シンポジウム(仮)「BIM活用の効果と課題」
パネラー 金沢工業大学下川教授、空創房、一級建築士事務所畝代表、栗林賢次建築研究所栗林代表、(株)大林組中嶋課長
- 定員 100名(申込先着順)
- 参加費 会員、学生2,000円
会員外3,000円

長野県の真田丸ゆかりの地を訪ねる研修旅行

11/12～13

- 友好団体である長野県建築士会との一層の交流を深めるため、NHK大河ドラマ 真田丸の放映で今話題の上田城をはじめとする建築を見学する一泊研修会を長野士会のご協力により企画しました。晩秋の古城でいにしへの武将の生涯に思いを馳せ、まちづくりについて共に語り合いたいと思いますので、ぜひご参加下さい。
- 詳細は、10月初旬頃に本会HPに掲載します。
- 日程 11月12日(土)～13日(日)
- 訪問先(予定)
上田城、真田丸大河ドラマ館、旧常田館製糸場施設、信州大学講堂、国宝安楽寺三重塔、真田氏屋敷跡、松代・真田鄭、横田家住宅

まちづくり分科会・地域分科会大阪市南地域共催 「大阪長屋の魅力を訪ねて～講演会&まち歩きin阿倍野～」のご案内

11/13 CPD3単位(予定)

- 第1部の講演会では地元密着型の不動産会社・丸順不動産代表小山隆輝氏に大阪市内の長屋等の既存ストックを不動産の視点から付加価値付けして再生した事例についてご講演いただきます。第2部のまち歩きでは、「桃ヶ池長屋」

- のほか阿倍野区昭和町界隈に点在するオープンガヤ大阪2016参加の長屋及び小山氏が手掛けた事例を小山氏とともに巡ります。
- 日時 11月13日(日) 集合 13:30～14:00～17:00
- 集合場所 レンタルスペース阿倍野長屋
阿倍野区昭和町4-6-8
Tel.06-6624-1127
- 募集定員 30名(申込先着順)
- 参加費 会員1,000円 会員外1,500円

建築士の会 南河内 太子町内の歴史的建造物 叡福寺・西方院の見学会と駒ヶ谷の地元河内ワイン館工場見学

11/19 CPD4単位(予定)

- 上ノ太子駅をスタートし、太子町の聖徳太子のお墓のある「叡福寺」、太子の乳母3尼公ゆかりの「西方院」で歴史的建造物を見学します。その後、駒ヶ谷駅から羽曳野市の地場産業である葡萄を使った美味しいワインを造る河内ワイン館を訪ねます。
- 日時 11月19日(土) 13:00集合～17:30解散
- 集合場所 近鉄南大阪線「上ノ太子駅」駅前南側広場
- 定員 30名(申込先着順)
- 参加費 3,000円(ワイン館有料試飲、入館料、電車・バス代金含む。)
- ※見学会終了後、河内ワイン館内レストランで懇親会を予定しています。
(会費は別途2,000円程度です。)

建築士の会 東大阪 建築士の会 やお・かしわら わくわく探検(駅前シリーズ)第16弾 生駒山上から暗峠をへて枚岡神社へ

11/26 CPD2単位(予定)

- 今回は、近鉄生駒鋼索線(生駒ケーブル)生駒山上駅を出発し生駒山頂幻の都市計画、日本最古級の遊園地等をご案内し、髪切山慈光寺、暗峠松尾芭蕉句碑を巡り、枚岡神社を目指し街道を下る約4kmの行程です。
- 日程 11月26日(土)
- 集合 近鉄生駒鋼索線生駒山上駅改札口
- 解散 枚岡神社(最寄駅近鉄奈良線枚岡駅)
- スケジュール
9:30 受付開始
9:45 散策出発
13:00 クイズの解答、賞品授与
13:30 解散
- 募集 20名(申込先着順)
- 参加費 1,000円

大阪市東地域会・まちづくり分科会共催 「真田丸探訪」

11/26 CPD3単位(予定)

- 日時 11月26日(土) 14:00～17:00
- 集合場所 JR玉造駅北改札集合
- 参加人数 30名(申込先着順)
- 参加費用 会員1,000円 会員外1,500円
- コース JR玉造駅→三光神社参拝→旧真田山陸軍墓地

- (公財)真田山陸軍墓地維持会常務理事の吉岡武氏に案内をお願いして、陸軍墓地及び真田丸について解説をいただきます。
- 善福寺前を通り心眠寺見学後、円殊庵付近で解散。その後徒歩にて空堀商店街へ、17時空堀商店街付近にて懇親会を行います。

第36回近畿建築祭「京都市大会」

12/3

- 全国大会京都市大会の周知と近畿の建築士会全体が一丸となった協働を目指します。
- 開催日時 12月3日(土) 10:00～16:30
- 会場 真宗教化センター しんらん交流館
京都市下京区諏訪町通六条下上柳町199
- 参加費 3,000円(お土産・昼食付)
※エクスカッションC,Dは+1,000円
- 申込締切 10月28日(金)
- 申込方法
今月号同封の近畿建築祭申込書にご記入いただき、本会事務局までご送付ください。
詳細は、今月号同封の近畿建築祭京都市大会のお知らせをご覧ください。

本会の催し参加問合・申込先

- 大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
高田屋大手前ビル5階
地下鉄「谷町4丁目駅」1-B出口すぐ
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP http://www.aba-osakafu.or.jp/

Administration

行政からのお知らせ

「第5回 大阪の住まいカアップリフォーム・リノベーションコンクール」開催

- 中古住宅をリフォームやリノベーションして、住みたい街に住むことの魅力を上げていくことを目的に、府内のリフォーム・リノベーションの事例を募り、優秀な事例を表彰します。
- 主催 大阪の住まい活性化フォーラム、大阪府賞 大阪府知事賞(予定)、大阪の住まい活性化フォーラム会長賞等
- 事前登録
11月4日(金)23時59分まで(予定)に以下のアドレスから登録してください。
http://osaka-sumai-refo.com/fwd3/award5before
(「第5回 リフォーム・リノベーション 事前登録」で検索)
- 詳細は、HPをご覧ください。
http://osaka-sumai-refo.com/fwd3/award5
- 問合 大阪府住宅まちづくり部都市居住課
Tel.06-6941-0351(内3036)

INFORMATION については本会ホームページにも掲載されています。
本会ホームページの WEB 申込システムから簡単に申込みができます。【詳細は大阪府建築士会ホームページ】<http://www.aba-osakafu.or.jp/> まで

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

既存建築物耐震診断等の評価・評定

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の学識者や実務者で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。

不特定多数が利用する施設や沿道建築物などの申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。
スピーディな審査を心掛けておりますのでどうぞ活用ください。

(業務内容)

耐震診断報告書の審査、評価
耐震補強計画書の審査、評価 等
(対象建築物)
公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。

(会員特典)

申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10%割引があります。
詳細は、本会ホームページをご覧ください。

平成28年度建築士定期講習 1/16、3/21 CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成25年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず受講してください。

日程
1/16(月) 定員300名 会場コード5C-04
3/21(火) 定員300名 会場コード5C-54
会場 1/16(月)、3/21(火)大阪国際会議場
時間 9:25～17:00
申込必着日 12/12(月):講習日1/16(月)
2/14(火):講習日3/21(火)
※簡易書留での郵送のみ受付いたします。
※各回定員に達し次第、受付を終了します。
受講料 12,960円(消費税含)
申込書配布・受付場所
大阪府建築士会事務局
大阪府建築士事務所協会事務局

大阪府知事指定講習 平成28年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算法》 1/26 CPD6単位

既存木造建築物の限界耐力計算法による耐震診断は、一般診断法が建物の強度を評価するのに対して、建物の強度だけでなく、減衰性能も評価することができる診断法です。したがっ

て、変形能力が高い伝統構法の民家や社寺建築の耐震性能を多角的に評価でき、一般診断法では不可能な変形能力や減衰性能を考慮した合理的な補強計画やダンパーを用いた最新技術による制振補強も可能となります。この機会に限界耐力計算法の技術を修得され、今後の業務に活用されますようご案内いたします。
日程 平成29年1月26日(木)
時間 10:00～16:30
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅 地下鉄「谷町四丁目」下車
定員 120名(定員になり次第締切)
受講料 会員6,000円 会員外8,000円
テキスト代 4,000円(大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル)

大阪府知事指定講習 平成28年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法講習会》 12/8・2/9 CPD各5単位

本講習会修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることができる技術者として名簿に掲載します。(本講習会は、国土交通大臣登録講習ではありません)
日程 ①12月8日(木)
②平成29年2月9日(木)
時間 10:00～15:50
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅 地下鉄「谷町四丁目」下車
定員 各120名(定員になり次第締切)
受講料 会員5,000円 会員外9,000円
テキスト代 7,200円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

監理技術者講習 (監理技術者以外の方も受講可能) 10/13、11/22、12/16 CPD各6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、講習では建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供します。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひご受講下さい。
日程 10/13(木)、11/22(火)、12/16(金)
時間 9:00～17:00
会場 大阪府建築健保会館
最寄駅 地下鉄谷町四丁目駅
定員 各回90名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込み9,500円
郵送・窓口申込み10,000円
申込 日本建築士会連合会ホームページからお申込下さい。
<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

建築士会会員受講料全額補助 大阪府住宅省エネルギー設計者講習会 10/14～29、1/24 CPD各6単位

国土交通省は2020年までにすべての建築物に対し新省エネ基準適合を義務付けることを決

定しました。それに先がけて、設計者に木造住宅の省エネ技術の習得をしていただく講習会で、今年度が本講習会5ヵ年計画の最終年度です。
日程 10/14・10/27・11/9・11/25・12/7・12/20・1/13・1/24
時間 9:45～16:45(各回共)
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
大阪市中央区和泉町2-1-11
定員 各回120名
受講料 会員 本会が全額補助
会員外1,000円(テキスト代含)
※修了証発行費用は別途必要。
申込 専用のWEBからお申込みください。
[省エネ講習会](#) [検索](#)
※詳細は今月号同封のチラシをご覧ください。

建築士法にもとづく建築技術講習会 「京都鉄道博物館」建築技術講習会 ～設計者と施工者が語る「地域と歩む鉄道文化拠点」としての京都鉄道博物館～ 10/20 CPD4単位

京都鉄道博物館は、大阪市内の旧交通科学博物館と当地の梅小路蒸気機関車館を統合し、新たに総合鉄道博物館として拡張整備した施設です。このたびは現地での講義と施設見学を行います。
日時 10月20日(木) 13:30～17:30
会場 京都鉄道博物館
最寄駅 JR京都駅より京都市バスで「梅小路公園前」下車
内容 京都鉄道博物館の展示計画と展示物の設置工事、京都鉄道博物館の建築計画、京都鉄道博物館の施工計画
定員 108名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員4,000円
後援団体会員5,000円
一般6,000円 学生1,500円
※受講料には入場料を含んでいます。

建築士法にもとづく建築技術講習会 大阪府知事指定講習 「建築基準法等に関連する改正内容の周知」と「大阪府福まち条例ガイドライン」について 11/8 CPD3単位

建築基準法を含む最近の改正状況や、建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律、「大阪府福祉のまちづくり条例ガイドライン」について、大阪府住宅まちづくり部担当官に分かりやすく解説していただきます。なお、本講習会は法定講習とは異なり受講は任意です。
日時 11月8日(火) 13:30～16:55
会場 大阪府建築健保会館
最寄駅 地下鉄谷町四丁目駅
内容 建築基準法を含む最近の改正状況、建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律、「大阪府福祉のまちづくり条例ガイドライン」の紹介
定員 150名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員2,500円
後援団体会員3,500円
一般4,500円

建築士法にもとづく建築技術講習会 BIMハンズオン(操作体験)セミナー 11/10、11/24 CPD各3単位

話題のBIMについて「3Dの操作は難しいのでは?」「どのソフトを選べよかわからない」という方のため、代表的なBIMソフトウェアの中から2種類について、インストラクターによるモデル入力や図面出力の解説と、操作体験を行います。
日時 RC造編 11月10日(木) 13:30～17:00
木造編 11月24日(木) 13:30～17:00
※いずれか1日、または両日の受講も可能。
会場 中央工学校OSAKA
最寄駅 地下鉄御堂筋線「緑地公園駅」
内容 BIM概要、操作体験(ARCHICAD 20、GLOOBE)
定員 各回20名(定員に達し次第締切)
受講料 〈いずれか1日のみ受講〉
建築士会会員2,500円
後援団体会員3,000円
一般3,500円
〈両日とも受講〉
建築士会会員4,500円
後援団体会員5,500円
一般6,500円

ヘリテージマネージャー ステップアップ講座第1回 11/23 CPD4単位(予定)

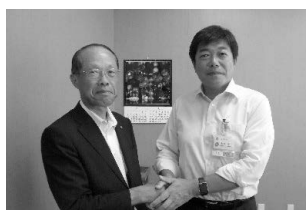
「平城宮跡の整備と建物復元」と「古代建築と大極殿の復元」について学びます。特に古代から中世、近世へと時代とともに変化していく伝統木造建築の意匠に注目した内容です。
日時 11月23日(水・祝) 13:00～17:00
場所 奈良文化財研究所
奈良市佐紀町247-1
内容 12:45 復元事業情報館前受付開始
13:00 大極殿(免震装置含む)見学
14:00 平城宮跡の整備と建物復元講習
15:30 古代建築と大極殿の復元講習
募集 50名程度(申込先着順。但し、大阪府ヘリテージマネージャー育成講座修了者・受講者優先。)
受講料 1,000円

長期優良住宅化リフォーム推進事業の講習団体登録 建築士会インスペクター養成講座 11/24・3/1 CPD各5単位

本講習では、宅建業法改正により今後需要が見込まれるインスペクション業務について、国土交通省のインスペクションガイドラインに沿って、その目的とインスペクション部位ごとの調査方法及び報告書の作成方法等を具体的に説明します。修了者は建築士会インスペクターとして登録され、建築士会ホームページに掲載します。
日程 ①11月24日(木)
②平成29年3月1日(水)
時間 9:50～16:20
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 100名(定員になり次第締切)
受講料 会員12,000円 会員外17,000円
(テキスト代・登録料含む)
※来年度テキストには鉄筋コンクリート造・共同住宅のインスペクションが追加されました。

会長動静

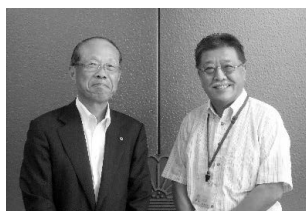
- 8/22 大東市長面談
四条畷副市長面談
- 8/24 島本町長面談
- 8/26 交野市長面談
- 8/28 和泉市制施行 60 周年記念式典
- 8/31 国土交通省中央建築士審査会
- 9/ 2 太子町長面談
松原市都市整備部長面談
- 9/ 5 河南町長面談
千早赤阪村長面談
- 9/ 9 大阪建築コンクール受賞者講演会
- 9/14 河内長野副市長面談
阪神淡路まちづくり支援機構総会
- 9/15 高槻市長面談
- 9/20 建築士会連合会総務企画委員会
- 9/21 理事会・正副会長会議



東坂大東市長(右)



森川四条畷副市長(右)



川口島本町長(右)



黒田交野市長(右)



村上松原市
都市整備部長



浅野太子町長



武田河南町長(左)



松本千早赤阪村長(右)



榊井河内長野副市長(左)



濱田高槻市長(左)

運営委員会

二級建築士設計製図試験を実施

平成 28 年度の二級建築士設計製図試験が、9 月 11 日(日)に全国の知事施行試験として「景勝地に建つ 土間スペースのある週末住宅(木造 2 階建て)」の課題で実施されました。

大阪では、近畿大学東大阪キャンパスにおいて、本会が実施運営を担当しました。今年度の受験者数は、全国で 11,158 名、大阪では 875 名と、昨年に比べ全国で 1,702 名、大阪で 158 名増加しました。10 月 9 日(日)には、同大学で一級・木造建築士設計製図の試験を実施します。

事業委員会

大阪府住宅省エネルギー設計者講習会を実施中

国土交通省は 2020 年までにすべての建築物を対象とする新省エネ基準への適合

の義務化を決めており、来年度から確認申請に連動した「省エネ適合性判定」が導入されることに備えるため、本会では現在、「建築物の省エネルギー講習会」を実施しています。講習会は 10 回開催し 800 人の受講者を見込んでおり、1 回目・2 回目の申込は満席の状況です。本会会員の受講料は本会が負担しますので、奮って受講してください。

社会貢献委員会

大地震時の応急危険度判定士連絡訓練を実施

本会が大阪府と締結している被災建築物応急危険度判定士派遣協定に基づき、国土交通省及び全国の都道府県等で構成する全国判定協議会と共同して、8 月 30 日に判定士の連絡訓練を実施しました。連絡訓練の目的は、本会会員判定士の携帯電話及び E メール等による連絡網が有効に機能するか、又、近畿圏外の判定活動に、本会判定士がどの程度参加していただけるのかを把握するものです。今回の訓練では、マグニチュード 7.3 の東京都心南部に直下地震が発生したとの想定により、本会の会員判定士 613 名に対して、東京都で連続 3 日間の判定活動が可能か否かをお聞きしました。その結果、216 名に参加可能な回答をいただき、その旨を大阪府へ報告しました。

社会貢献委員会

「大阪三大城下町めぐり案内マップ」11 月発行予定

本会ヘリテージ部会では、今年度の文化庁助成事業である「文化遺産を活かした地域活性化事業」の一環として、「大阪三大城下町めぐり案内マップ」作りを進めており、11 月の発刊を予定しています。大坂、岸和田、高槻の、江戸時代に構築された 3 つの城下町をつないで、地域の歴史文化遺産を紹介するマップです。歴史・まち歩きファンはもちろん、大阪城真田丸に興味を持った方々等に、大阪府は文化財の宝庫であり、数々のおもしろい歴史の証しを知っていただくきっかけになればと思います。ぜひマップを手三つの城下町を歩いてみてください。

「四国バスツアー」～四国ドック進水式と旧金比羅大芝居（金丸座）見学～

日程：平成 28 年 8 月 22 日（月） 参加者：26 名

本会の「建築士の会北摂」では、異業種見学として造船技術と船の進水式を見たいとの要望が昨年からあり、一泊とするか日帰りとするか、また、どこを見学するか紆余曲折はありましたが、8 月 22 日に四国日帰りバスツアーとして実現しました。

ツアーは平日の早朝の出発にも関わらず 26 名の参加があり、朝 7 時に西梅田を出発して、まずは四国の金比羅に向かいました。

最初の見学先である金丸座は、天保 6 年（1835 年）に建てられた日本最古の芝居小屋で昭和 45 年 6 月 17 日「旧金比羅大芝居」として国の重要文化財に指定され、現在あるのは昭和 47 年より 4 年かけて昭和 51 年 3 月に愛宕山の中腹に移築復元されたもので、今でも歌舞伎の芝居等で使われています。

平成 15 年の大修理では内装が復元され、

人力による舞台装置などが江戸期の雰囲気を感じているようです。また、金丸座で芝居をされている役者の一人と親戚関係にあるツアーの参加者が偶然おられるというサプライズがありました。

見学後、表参道にある地元名物の「こんぴらうどん」を賞味し、次の見学場所の高松港にある四国ドックへと向かいました。ドックでは、総トン数 1 万六千八百トン、全長 188.60m、幅 26.00m、深さ 14.00m の大規模冷凍運搬船の進水式に立ち会うことができ、同船が進水していく迫力はインターネットで見る映像以上のものでした。その後、広報担当の中西さんの丁寧な説明で、工場内を見学をしました。実際に船を造る造船技術の工程である鉄板を、水と火づくりによって曲面形成をしていく様子も見ることができ、異分野に触れる貴重な体験でした。

造船所を後にして、耐震改修の目途が立た

藤池寛治（地域分科会委員）



ず取り壊しの危機にある丹下健三設計の香川県立体育館を車中から見ながら、最終目的地の、高松駅近くの海に隣接する北山アリーナを見学しました。アリーナというのは路地裏との意味ですが、北浜 JA 倉庫が新たな商業施設として再生させたところで、歴史を感じさせてくれる倉庫の外観と各テナントの個性が醸し出す雰囲気が良く、ちょっと覗いてみようかなという気持ちにさせてくれました。ここで皆さんが寛いだと、帰路大阪へと向いました。



進水式の様子

大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会における出前授業の取り組み

日程：平成 28 年 8 月 19 日（金） 会場：泉大津市立東陽中学校 参加者：約 30 名

大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会は、小・中学校の教員や、将来の担い手である生徒を対象として、住まいやまちづくりに関する出前授業による教育の支援を行っており、本会をはじめ、大阪府住宅まちづくり部の関係部署、大阪建築防災センター、大阪住宅センター、日本建築家協会近畿支部、日本建築協会、事務局を務める大阪府建築士事務所協会が会員となって活動をしています。

出前授業のテーマとしては、「快適な住まい」「バリアフリー」「夢の家」「防災を学ぼう」などがあり、小・中学校に出向き、教師や生徒に対して、講義を行っています。特に教師に対しては当協議会作成のデーター及び資料等をお渡しし、教師自らが講義できるノウハウをアドバイスしています。

泉大津市立東陽中学校において、本年 8

月 19 日（金）14～16 時に教師向けの出前講座を行い、東陽中学校教員と他校の家庭科教員 30 名強が参加されました。講座では、まず、防災センターの村尾委員から「防災」について、近年発生したさまざまな災害による被害を紹介し、防災知識を身につけることの重要性を説明しました。

続いて、事務所協会所属で本協議会の戸田会長より、気候・風土に合った様々な世界の住まいやそれぞれ快適に過ごすための仕組みや工夫をお話し、そして建築家協会の橋本委員より、目には見えませんが住まいの快適性に影響を及ぼす熱対策について、サーモグラフィーを使ってのアクティブな解説を行いました。

最後に、大阪府建築士会の竹田より、本会の女性分科会有志で作成し、今年 3 月に発刊した冊子「安心・安全安らぎの家」

竹田敦子（女性分科会委員）



を基に、高齢者における住まいの中に潜む危険とその解決方法についてお話しをしました。

出前講座の内容は、座学の他にゲーム、工作、防災グッズと福祉機器体験等があります。近年は小中学校からの出前授業の要請も多く、お手伝いしていただける方を随時募集しております。建築士会会員では協議会委員として、分田美子、原恵一、竹田敦子が活動しておりますので、気軽にお声掛け下さい。



東陽中学校における出前授業

鉄道延伸と新駅周辺のまちづくり

箕面市 岡本 秀

1 はじめに

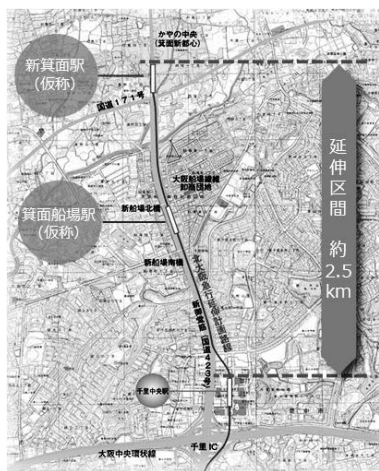
箕面市は大阪府北西部に位置する緑豊かな住宅都市である。一貫してコンパクトかつ秩序あるまちづくりに取り組んできた。

平成二〇年以降、人口は毎年一%増加している。新市街地だけでなく既成市街地においても子育て世代が流入している。保育所の新設や高校卒業までの医療費助成拡大、小学校一年からの英語教育の導入等、先駆的な教育施策のほか、利便性と共存しつつ豊かな緑を維持・保全する取り組み、さらにそれらの徹底的なPRに、戦略的に取り組んだ結果である。

そして、箕面市が未来を生き抜いていくために必要な最後の都市インフラが北大阪急行線の延伸である。

2 北大阪急行線の延伸

北大阪急行線の延伸は平成三二年度開通をめざしている。北大阪急行線は新大



阪、梅田、難波の各駅を有する地下鉄御堂筋線に直結し、延伸が実現すると、箕面市から大阪都心部まで乗り換えなしでアクセスできる。所要時間は二〇分強。「緑に囲まれた閑静な住宅街」が強みの箕面市に、圧倒的な交通利便性という強みが加わる。

都心部へのアクセスが良くなるだけではない。箕面市の課題は市内の東西移動。鉄道が西部地域にしかなく、バス路線の拠点を持たないことが要因である。結果、自動車依存度が近隣市と比較して一・五倍も高い。鉄道延伸に伴い二つの新駅が整備されると、市街地の大部分が徒歩または自転車、駅に直接アクセスできる。また、新駅の一つがターミナル駅となり、広域的な交通結節点機能を担うため、バス路線の再編が可能となり、市内の東西を結ぶ公共交通が充実する。

さらに、鉄道延伸を都市骨格を形成するインフラストラクチャーとして最大限に活用し、まちにパライムシフトを起こすため、新駅周辺のまちづくりにも地元と連携しながら取り組んでいる。

3 新箕面駅周辺（かやの中央地区）のまちづくり

鉄道延伸に伴い整備される二つの新駅は「新箕面駅」と「箕面船場駅」（いずれも仮称）。新箕面駅は市街地のちょうど中央で、かつ本市の人口重心がある「か

やの中央」に整備する。かやの中央は国道四二三号と国道一七一号が交差する交通の要衝で、鉄道延伸を見越して



（仮称）新箕面駅周辺のイメージ図

て土地区画整理事業を実施し、平成一五年にまちびらきした。北摂山系の豊かな自然を背景として、川を活用した親水空間、市民広場緑地など自然を体感できるスペースを確保するとともに、大規模商業施設「みのおQ's Mall」が併設され、年間一、〇〇〇万人以上の集客を誇っている。新箕面駅はその「みのおQ's Mall」の中央二階部分に整備する。

新箕面駅（かやの中央）は北摂の玄関口となる。広域的な交通結節点機能を担い、バス路線再編の拠点となるバスターミナル、タクシーベース、駐輪場を有する交通広場を整備する予定である。また、新駅へのアクセスを確保するため、周辺の都市計画道路の整備に着手し、既に一部供用を開始した。

さらに、集客力を持続して維持・向上する正のスパイラルを創出するため、交

通広場の上空を立体利用し、子育て支援機能や商業機能をもった駅前ビルを整備する。

既存商業施設も、これまでのロードサイド型から駅前商業施設へ変革されることを期待している。

一方で、守らなければならないものがある。かやの中央の東西の両翼に広がる農地である。「便利」だけが箕面市の魅力ではない。「豊かな緑」に囲まれた住宅街であり、かつ、「便利」であることが箕面市の魅力である。鉄道の延伸により市街化圧力は高まるが、箕面の大切な財産である「豊かな緑」に囲まれた住宅街を強く守り育てていく。

4 箕面船場駅（船場東地区）のまちづくり

船場東地区は、箕面市にとって特殊な空間である。大阪船場繊維卸商団地（以下「船場団地」として昭和四五年にまちびらきして以来、日本有数の繊維卸商団地として商業活動が行われてきた。容積率六〇〇%の商業地域で、高層ビルが建ち並ぶ。

しかし、繊維卸業を取り巻く環境変化等により、平成に入ってしばらくすると、空きビルや空きスペースなど十分に活用されていない土地が散見されるようになり、続いて遊技施設やマンションなど、当初想定していなかった建物が建築され

るようになった。

船場団地で活動する繊維卸事業者で構成する「大阪船場繊維卸商団地協同組合」は、箕面船場駅の整備を契機として新たなまちづくりに取り組みこととし、平成二四年五月、「船場団地再整備マスタープラン」を策定した。

マスタープランでは、「物流中心のまち」から「人が集うまち」への転換をはじめとするまち全体の方向性とともに、先行的に新たなまちづくりに取り組み駅前エリアでは、繊維卸機能を排除して、健康、教育、住宅などの都市機能を導入する思い切った方向性が提示された。

平成二六年六月には、箕面船場駅前のエリアを対象として「箕面船場駅周辺土地画整理準備組合」を設立。以来、敷地整序型の土地画整理事業の実施により大街区化を実現する事業計画が検討されてきた。現在は法に基づく土地画整理組合の認可を申請（対象地…四、八ヘクタール）しており、組合設立後は速やかに仮換地指定を行い、今秋には建物の除却工事に着手する。

船場団地は昭和四〇年代に、既に一度、土地画整理事業が行われた場所である。高度経済成長時の重厚な造りのビル群を除却するには多大な費用が必要。地権者だけでは負担が重過ぎる。

地権者の土地に対する様々な想いは勿論ある。まちづくりに協力して良かったと思われるまちにしなければならない。

新たなまちにふさわしい道路や公園の場所と機能が求められる。既にある公園を移転してリニューアルする。これまで積み重ねてきた都市計画、土地利用の様

々なルールをゼロから見直す必要がある。

課題は尽きない。だから皆で想いと考えをぶつけあう。課題の多さと重さに押し潰されそうになることもある。でも、胸のつかえが取れたようにスッキリと解決できることもある。

そんなこんながあってもまちづくりは進んでいる。大街区化した後に整備する新たなまちの核施設は大きく三つ。同時並行で検討している。

(1)国立大学法人大阪大学箕面新キャンパス
現在の大阪大学箕面キャンパスは、本市の東部地域にある。かつては「大阪外国語大学」だったが、平成一九年に大阪大学と統合。平成二三年一月、当時の大阪大学総長が年頭所感で、他市キャンパスへの移転を明言し、大学広報誌に掲載された。

市はまちづくりの重要な拠点である大学キャンパスが市外に流出する最悪のケースを防ぐため挽回を図り、平成二七年六月、同キャンパスを箕面船場駅前に移転する覚書を大阪大学と交換、翌年四月には正式合意書を締結した。

大学そのものがまちの魅力になると同時に、新キャンパス周辺に大学発ベンチャー企業を集積できるなど、新たなビジネス拠点としての可能性が広がる。さらに、大阪大学は地域に開かれた都市型キャンパスを志向されており、また、まちなかで常に数百〜数千人の学生・教員が活動されることから、商業や市民活動の大きな活力になると期待している。

(2)(仮称)関西スポーツ科学・ヘルスケア総合センター

〔(仮称) 関西スポーツ科学・ヘルスケア

ア総合センター〕は、スポーツ科学の視点から、健康寿命の延伸、予防医学の拠点となる施設整備にむけて、大阪大学医学部を中心に、また同大学工学部や民間事業者も参加する関係者連絡会議を開催し、検討を進めている。今後、拠点となる建物の規模等を決めるとともに、平成三二年に開催される東京オリンピックの動きとも連動して、先駆的な取り組みを実施していく。

(3)市公共施設

【市民ホールと文化交流施設】

現在、箕面市には二つのホールがある。市民が生涯学習・芸術活動の発露として活用する六〇〇席規模の「メイプルホール」と、芸術鑑賞機会の確保を目的とする一〇〇〇席規模の「グリーンホール」である。

グリーンホールは竣工以来、約半世紀が経過し、老朽化、バリアフリー等の課題を抱え、十分に活用されているとは言い難い。将来、北大阪急行線が延伸され、市内はもとより市外からの集客力も期待できる船場地区を最終移転候補地として決定した。併せて、会議室や音楽スタジオ等で構成する文化交流施設も整備する。

【図書館】

現在、箕面船場駅周辺には、西側の国道四二三号を跨いで徒歩約一〇分のところに図書館がある。立地が悪く規模の割に利用者が少ない課題を抱えていた。箕面船場駅前への移転を検討していたところ、大阪大学箕面キャンパスの移転が決まり、移転する図書館に、市立図書館機能と大学図書館機能を兼ね備えることとした。同図書館の運営は文化交流施設とあわせて、将来にわたって大阪大学に無

償で請け負っていた。

平成二

八年三月、

安藤忠雄

建築研究

所にまち

づくりの

基本構想

を取りま

とめいた

だいた。

キーワード

ドは三つ。



(仮称) 箕面船場駅周辺のイメージ図 (安藤忠雄建築研究所作成)

「コンパクトシティ／立体重層都市」「キャンパス・コミュニティ」「歩いて楽しい街並みづくり」。二階レベルにデッキを広く整備し、車は一階、人は二階、動線を分けて安全性を確保するほか、新駅前前と二階デッキの南北端に広場（公園）を配して、賑わいと回遊性を創出する。

5 おわりに

船場団地に出かける。真夏の夕日に照らされて、茶色に鈍く輝くビル群が目の前に聳え立つ。これらを除却し、ハードとソフト、両方の意味で、新たなまちを創らねばならない。多くの人を巻き込んで、まちづくりは動き始めた。全力で取り組む。

岡本 秀

箕面市役所地域創造部北条まちづくり推進室長

一九七〇年 大阪府生まれ

一九九三年 大阪大学文学部日本学科卒

一九九五年 箕面市役所入庁

二〇一四年 現職



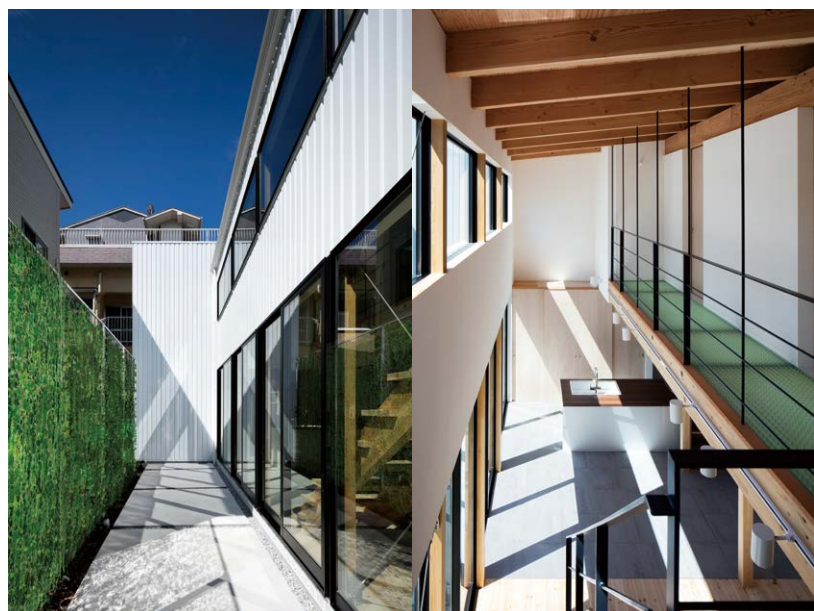
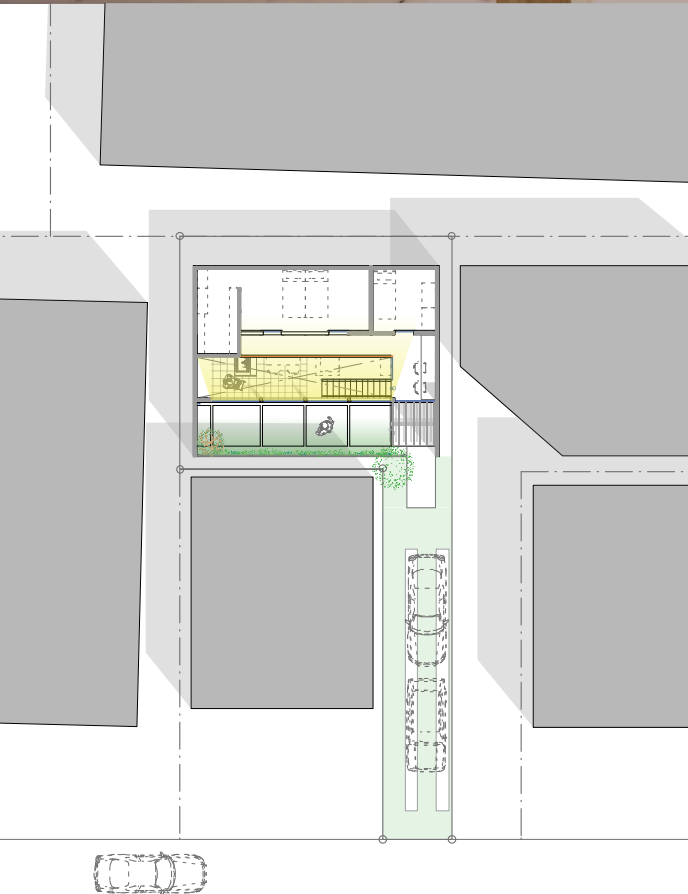
敷地は六甲山頂付近の南斜面にあり、瀬戸内海への眺望が美しい場所である。この場所に、企業の賓客を迎えるゲストハウスを計画した。建物は3つの宿泊棟と1つのパブリック棟の4つの分棟とし、敷地の傾斜に合わせてそれぞれのボリュームを配置し、4棟に囲まれた中央部に中庭を設けた。各棟はシンプルな形態とすることで、六甲の自然の中に溶け込むような群の建築を目指した。静寂な大自然と稀有な眺望を楽しみながら、ホストと来賓が語り、記憶に残る大切な時間を共有できる場をつくることを考えた。

建築主：株式会社
アシックス
所在地：神戸市灘区
用途：ゲストハウス
竣工：2015.12
構造規模：木造・RC造
地上2階・
地下1階
敷地面積：899.12㎡
建築面積：124.37㎡
延床面積：157.59㎡
写真：母倉知樹



敷地は、JR 加古川駅から南へ徒歩 10 分、巾 20 m 道路の角地に位置する。建物は、1 階にテナント、2 階に和風 Cafe、リラクゼーションサロン、3 階に 1R 4 戸の集合住宅の複合ビル。要望は木の格子や、建物の一部に R を取り入れ、シンボリーツリーに、ケヤキを植えたモダンな和の建築にして欲しいなどであった。植込を建物の中心に設け、ケヤキを眺めながら 2・3 階へと導く。窓際に植えられた竹や建物全体を、R を取り入れた木の格子で取り囲み、それらがコンクリート打放しと調和し、モダンな和の雰囲気を出している。広い道路の角地に建ち、建物がどこからも眺められ、時と共に街のランドマーク的な建築になることを願う。

所在地：兵庫県加古川市
用途：複合ビル
竣工：2016.04
構造規模：RC 造 1・2 階
(複合施設)
+ S 造 3 階
(集合住宅)
敷地面積：313.63㎡
建築面積：150.39㎡
延床面積：369.59㎡
写真：福澤昭嘉



敷地は長さ15m 幅2mの通路で接道する旗竿敷地で、二方を共同住宅、もう二方を戸建住宅に囲まれています。四方からの視線に配慮し四面を壁で構成し、南から北に向けて順に、屋外テラス・吹き抜けのリビング・各諸室を並べ、段階的に奥まで光が届く空間構成としました。屋外テラスに面する外壁面を緑化する事で、壁に囲まれた小さな空間でありながら、常に自然を近くで感じる事の出来る心地よさと静寂な雰囲気が、吹き抜けのリビングを介して内部空間に溢れています。（井上久実）

所在地：大阪府箕面市
用途：専用住宅
竣工：2016.08
構造規模：木造
敷地面積：153.20㎡
建築面積：58.79㎡
延床面積：101.44㎡
写真：富田英次

戦後の集合住宅を振り返るとき、テラスハウスと呼ばれる低層接地型の長屋タイプの先駆的な試みが行われていた歴史は、このまま人知れず忘れ去られてしまうのか。そんな思いを抱いて今年五月に訪れたのが、東京都中野区にある鷺宮団地である。

高田馬場から西武新宿線に乗って一三分、鷺ノ宮駅で下車し、細い路地を七分ほど南に歩くと、風景が突然開け、緑に覆われた小ぶりの団地が見えてくる。コンクリートブロックの外壁と鉄筋コンクリートの切妻屋根からなる一棟四戸と二戸の素朴なたたずまいの住棟が六棟、ハの字形に少し開いた角度で仲良く並んでいる。外観からは平屋にも見えるが内部は二層になっており、一・二階共に床や間仕切りは木造でできている。一住戸の床面積は一六・五坪である。

建設当時の資料を見ると、敷地面積四三三五㎡、普通分譲全二〇戸、住戸形式「東56(TN3DK)」と記載されている。この略号は、日本住宅公団東京支所建築部が一九五六年に依頼して前川國男が作成した標準設計図を差し、北側に玄関を持つテラスハウスで3DKの間取りであることを意味する。竣工から約六〇年の歳月が流れ、周囲の樹木は大きく成長し、各住戸も増改築を重ねていた。住人の話によれば、近く建て替え工事が始まるという。実は、ほぼ同じ形式の標準設計図によって建てられたのが、翌一九五八年に竣工する世田谷区の烏山団地と杉並区の阿佐ヶ谷団地である。後者は全一七四戸の赤い屋根の三六棟が広い敷地に点在し、緑に包まれた良好な住宅地として広く知られていた。しかし、いずれも再開発によって近年相次いで姿を消し、鷺宮団地が最後に残されたのである。

このテラスハウスはどのようにして生み

出されたのだろうか。一九四五五年の敗戦時の日本は、空襲による焼失や戦時統制による供給不足などによって四二〇万戸の住宅不足に陥っていた。それから一〇年後の一九五五年になっても、依然として二七二万戸の住宅不足という現実があった。そこで、「住宅に困窮する勤労者のために耐火性能を有する構造の集団住宅及び宅地の大規模な供給を行う」ことなどを目的に設立されたのが日本住宅公団である。その草創期に、都心型の晴海高層アパート（一九五八年）

記憶の建築

松隈 洋

日本住宅公団鷺宮団地 1957 年
公団草創期のテラスハウスの試み



緑に覆われた住棟全景



南西から見る住棟

と共に、郊外型のテラスハウスの試作として前川國男が設計したのがこれらの団地で採用された標準設計だった。前川は、戦時下で上海で手がけた華興商業銀行総合社宅（一九四二年）や敗戦直後の木造組立住宅プレモス（一九四六・五一年）の実績などから依頼を受けたのだろう。そして前川の下で晴海高層アパートに続き、この標準設計を担当したのが大高正人である。大高は、これらの設計を進めていた当時、「公団住宅の設計に対する批判」と題した文章の中

で、次のような手厳しい言葉を記していた。「気の付く事は、公団住宅に限らず今迄に建った多くのアパートには、デザインが無いと云う事です。（中略）何という事もないコンクリートの四角な箱に四角な窓をあけて、和風建築のインテリを叩き込んだデザインには、設計する人の安直な物の考え方がはつきりと現れております。この場合の設計者の仕事は、昭和に始まった国際建築様式の最も安直なものと、伝統的な

人々が心から欲したものを、技術の力を尽して実現して行こうとする驚くべき創造力によってはじめて出来たものではないでしょうか。（中略）人は長屋に住んでいても、植木鉢をもとめ、涼しいスダレを買い、金魚鉢を置いて生活の豊かさを精一杯もてめています。そうした人間の素朴な欲求を、一定の経済条件の下で、どれだけ建物の設計に持込んでいくかに依って建物の価値が決り、そしてそのためには技術の可能な総てをあげて努力しなければならぬのです。我々は人々のために「構造」を作るのではなく、良い「家」を作らねばならないのですから。」

ここには、人々の生活の実相に応えようと努力した先人たちへの敬意とそれに連なろうとする意志が読み取れる。この文章は、次のような切実な言葉で終わっている。

「ともあれ設計にはデザイン—創造—豊かさ—が必要であり、そのためには良く訓練された建築家のチームワークが必要な事を早く認め合い、そして中でも難しい共同住宅の標準設計には、十分な時間と、したがって費用をかける様な習慣を早く作って行きたいものです。」

木構造のインテリヤーとを不細工に結婚させるだけの事で、何ら創造的なものが見られません。（『建築雑誌』一九五七年五月号）

その一方で、大高は次のような視点を提示することも忘れてはいなかった。

「法隆寺の庇や、農家の屋根は大きく張り出して、日光や雨に対する素晴らしい影を作っていますが、これとても簡単な構造で出来上がっているのではなく、当時の

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授。博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

日本に前例のない「コミュニティ型こどもホスピス」がこの春、鶴見緑地に誕生しました。
さまざまな病気をもつ若い命とむきあう「第二のわが家」の思想について、「こどものホスピスプロジェクト」理事長の高場秀樹さんにご紹介いただきました。

「TSURUMI こどもホスピス」における活動について

高場 秀樹

一般社団法人こどものホスピスプロジェクト理事長

2009年招聘した英国のこどものホスピス（ヘレン&ダグラスハウス）の創始者シスター・フランシスの思いに賛同。重い病気をもつ子どもの親として、病気をもつこどもや家族が気軽に集い、ほっと安らげる場の必要性を感じ、2010年に「こどものホスピスプロジェクト」を結成し、理事長に就任。団体の経営だけでなく、現在も講演会などで、こどものホスピスの活動を紹介するなど精力的にNPO活動に取り組んでいる。現在、株式会社ワン・トゥー・テン・ホールディングス代表取締役専務。

ホスピスという言葉には、穏やかな最期を迎えるための医療施設という印象が強いと思うのですが、私たちの現場はリゾート地にある別荘のような寛ぎの空間の中で、子どもやご家族の楽しそうな笑い声があちこちから聞こえて来ることもあり、言葉の印象とは少し離れているかもしれません。一言で取り組みの全貌を説明する事は叶いませんが、しいて言えば、どんなに重い病気があっても、同世代を生きる子どもと同じように、遊び、学び、出会い、体験し、成長する機会が得られるような場でありたいと考えています。なによりも、子どもやご家族が一緒にあって楽しいひと時を過ごす「第二のわが家」なのです。

税に依拠しない民間の善意によって支えるコミュニティ型子どもホスピスが日本で初めて登場したという事もあり、どういう取り組みなのか少しご紹介したいと思います。

シスター・フランシスの言葉

二〇〇九年、世界に先駆けて子どもホスピスの活動を推進されて来た、ヘレン&ダグラスハウスのシスター・フランシスを大阪にお呼びし講演会を開催致しました。英国における子どもホスピスを様々な視点からお話しいただきました。八〇〇人を超える来場者にお越しいただき、講演の最後には「あなたの出来る事から始めて下さい」という言葉で締めくくられていました。その言葉に勇気をいただき、二〇一〇年、大阪市総合医療センターの医師や看護師が中心となってプロジェクトが立ち上がりました。遊びや学びをご自宅に届けたり、季節のイベントを行ったり、小さな旅行を提供したり、遺族への傾聴活動などを行って来ました。

拠点を持たないまま、ボランティアの皆さんと共に「出来る事」を積み上げて行きました。そうした地道な活動がユニクロに認められる事となり、日本財団と合同で大型のご支援をいただく事となりました。そして、二〇一六年四月、大阪鶴見緑地公園内にある四三〇〇平方メートルの敷地を借り受け、「TSURUMI こどもホスピス」が建設される事となりました。

設計のデザインコンセプトは「家（ハウス）であるだけでなく、村（ヴィレッジ）のような場所」です。三角お屋根の六棟をアーチ型の廊下で結んだ姿。これは、中庭を挟んでどこに人がいても、お互いの存在が感じあえるような形状となっています。こうしたコンセプトによって、もたらしている三つの価値は、「いろいろなワクワク」「いろいろな安らぎ」「いろいろな出会い」です。ヴィレッジがいろいろな場所で溢れている。そんな素敵な建物を目指しました。オープンから少し時間が経ちましたが、ご利用いただく子どもや家族を始め、本当に多くの皆様に喜んでいただいています。設計、施工に関わっていただいた全ての皆様に心より感謝申し上げます。

LTCの子どもが二万人いる

私たちが対象とする子どもは「生命を脅かされる病気」と共に暮らしています。そうした子どもは「LTC(life-threatening condition)の子ども」と国際的に定義されています。日本にはおよそ二万人が暮らしており、一五歳までの生存率はきわめて低いと言われています。さらに難病の子どもはおよそ一五万人。私たちの取り組みは、LTCの子どもを中心に、難病の子どもを含めた範囲を対象に活動を行っています。対象年齢は原則一八歳ま

でとし、乳児期、学童期、思春期、成人期と、子どもには様々な成長段階があります。もちろん、どの子どもも生命に関わる大変重い病気を患っています。病名を挙げると、小児がん、心疾患、神経筋疾患、代謝性疾患、先天性異常、重度脳性麻痺などに大別できます。この様に、成長段階や病状は多様で、たとえ同じ病名であっても症状はその時々で大きく異なっています。病状の安定時期もあれば、きわめて不安定な時期もあり、長い生命もきわめて短い生命もあります。子どもホスピスの取り組みに平準化されたプログラムが不向きなのは、こうした理由によるところが大きく、一人一人の状況にあったケアプランを必要としています。もちろん、共通している事柄もあります。

それは、本来享受すべき子どもらしい暮らしが病気によって著しく損なわれているという事です。私たちは、そうした子どももやきうだい、それぞれの家族に友人の様な立ち位置から寄り添い、同世代を生きる子どもと同じ様に、遊び、学び、出会い、体験し、成長するための数少ない選択肢のひとつになろうとしています。「TSURUMI こどもホスピス」はそうした場を目指そうと心に決めた医療、福祉、教育の専門家と地域に暮らす多くの人々と共に活動を実践しています。

私たちが取り組む社会課題

私たちが取り組む社会課題とは何かと聞かれる事があります。そうした折には「学校に行けないのは、子どもや家族側の問題ではない事をご存知でしょうか」と答えるようにしています。学校、つまり教育。それは、遊び、学び、出会い、体験する場と言ってもよいでしょう。しかし生まれながらにして、もしくはある



ハウスの2Fにある「みんなのテラス」



子どもも大人も大喜び！クラウンがいっぱいイベントの風景



芝生のお庭で水遊びは子どもたちのお気に入り



秋の収穫が楽しみ！コットンの苗の植替え風景

日本初のコミュニティ型こどもホスピス 「TSURUMIこどもホスピス」を ご支援ください！

「TSURUMIこどもホスピス」(TCH)は、重い病気の子どもとその家族が、家庭的な環境の中でともに遊び、学び、楽しみ、安らいでいただける場所です。2016年春、大阪市鶴見緑地公園内にオープン！病院ではなく、地域で支えるコミュニティ型の“こどもホスピス”として、皆さまのご寄付で運営します。現在、TCHを支えていただく会員やサポーターを募集中(個人¥6,000、企業・団体¥100,000)。詳しくはWEBで。

あそび創造広場 TSURUMIこどもホスピス
(運営主体：一般社団法人こどものホスピスプロジェクト)
〒538-0035 大阪市鶴見区浜1丁目1-77
TEL: 06-6991-9135
Email: info@childrenshospice.jp
WEB: <http://www.childrenshospice.jp>

世界の子どもホスピスには四つの共通点があります。ひとつ目は「ローカル」。

「お母さんが楽しそうに笑っている姿を久しぶりに見たので、とても嬉しかったです。また参加したいです！」これは、先日、小児がんで亡くなったお子さんの言葉です。とても優しい心を持った素敵なお子さんでした。大切に慈しみながら育てているわが子を失うかもしれない。私たちの取り組みに流れる抗いようのない理不尽さは、どんなに覚悟しても、どんなに今を大切に過ごしても、受け入れがた

い事は言うまでもありません。一方、こうした苦悩は十分に理解できるものの、子どもの尊厳が大切に扱われているか疑問に感じる事例も少なからず存在しています。その子らしい「生」とは何だろうか、心から望んでいる「今」とは何だろうか。私たちは常に考え向き合っています。私たちの理念のひとつである「チルドレン・ファースト」には、こうした意味が宿っています。

日突然、病気によって学校へ行けなくなる。そうした場合、「今はゆっくり治療して、元気になってから学校へおいで」と言われます。しかし、治らない子どもはどうしたら学校へ行けるのでしょうか。これは、社会の側に受け入れる仕組みが整備されていないから……と考えています。医療機器を装備しても通える学校があれば、レストランがあれば、遊ぶ場があれば、家族も一緒になって楽しめる場があれば良いのですが、社会の側にその準備がない。これが日本における大きな社会課題なのです。

私たちは、どんなに重い病気であっても、その子らしく成長の機会がある社会を強く希望しています。そして、公的な取り組みでは実現しづらい領域を「TSURUMIこどもホスピス」のような民間の力を活用し、子どもや家族と共に実践していく事ができる、特別にしつらえた場所を社会に生み出そうとしています。

世界の子どもホスピス

「チルドレン・ファースト」

大切なわが子と心を通わせた暖かな記憶は、いつもわたしを優しく満たしてくれます。それがどんなに心苦しい時であっても決して変わることはありません。子どもに、きょうだいに、家族に、キラキラとした優しい微笑みがたくさん生まれる場を提供する。そして、大切なわが子を知っている多くのスタッフと地域に暮らす方々とともに、暖かな記憶を永遠に紡いで行けるような、優しく豊かな地域社会が広がる事を心から願っています。

企画展 大地震、命を守るために今できること

文 馬場 高章

◆はじめに

熊取町は、大阪都心部から三〇キロメートルの距離で、大阪府の南部・泉南郡にあつて関西国際空港のある泉佐野市の東隣に位置しています。

「熊取」の名の由来には、諸説あるのですが、動物の「熊」ではなく「隈」に由来するのではないかとわかっています。歌舞伎独特のメイクを「隈取」といいますが、周囲を山地・丘陵に「クマドリ」された谷、盆地地形から名づけられた可能性があるということです。

文献では、七三一年に住吉神社で編まれたという「住吉神代記」で「熊取」の名が確認できます。また、八〇四年「日本後紀」には、「桓武天皇が熊取野に遊獵した」ことがみえます。よって、千年以上前から熊取と呼ばれていることになります。

熊取は近世以来、多くのため池が築かれ、寡雨な気候ながら、当時の農業先進地として発展してきました。また、明治になってからは綿織物業等の繊維産業でも栄えました。

当時の綿織物工場をリニューアルして、平成一七年に開館した熊取交流センター「煉瓦館」では、当時の赤れんが工場の雰囲気味わっていただけだと思います。最近では、映画のロケにも使われています。

おり、館内にはレストランもありますので、是非ご来館ください。

昭和二六年の町制施行当時の人口は九八八九人と一万人を超えていませんでしたが、大規模団地の開発が行われた昭和五〇年ころから人口が急増し、昭和六〇年の国勢調査では三万三五四二人となりました。

ちなみにこの時、五年前の国勢調査からの増加率は三一・九パーセントとなり、当時の大阪府下市町村の最高の増加率を記録しています。

以前、この人口急増当時を知る小学校の校長先生からお話を伺う機会がありましたが、転校生といえ、しばらくはクラスで目立つ存在となるところが、とにかく次から次へと転校生が入ってくるので、クラスの子供たちは、ひとりの転校生にかまっている間もないということでした。児童急増のピークには、「月曜日に転校してきた子が、金曜日に転校してきた子に先輩として学校を案内していた。」というようなこともあったようです。そして、今、この頃建てられた住宅の耐震化が必要になってくるのです。

◆閑話休題

私自身は、コルビジェのリボン窓にあがれ、赤坂プリンスと六本木プリンス

の師弟対決に興奮し、「建築家」になろうと建築学科に進んだのですが、身の程知らずもいところで、才能にも恵まれず、学業成績も良くない学生は建築家にはなれません。

それでも、とにかく卒業ということになる訳ですが、今の若い人には、歴史上の出来事かもしれないが、時代はいわゆる「バブル」、就職は空前の売り手市場で、望めば就職したいところに就職できる世の中でした。景気がいいこともあり、今とは違って、公務員志望の学生が非常に少ない時代でした。

ある民間企業の大阪支店勤務となる予定だった僕が、なぜ、熊取町の採用試験を受験することになったかは、ここでは書きませんが、建築家どころか、建築にちよつと関係のある感じの町役場の職員になってしまいました。

さて、当課の業務範囲を一般的なカテゴリーでおおまかに説明するとすれば、「都市計画」、「開発指導」、「営繕」、「公営住宅管理」となるでしょうか。課内には「都市計画」、「開発指導」、「建築」という三つのグループがありますが、例えば、「開発指導」では、住宅の耐震やリフォームの補助制度、「建築」では、営繕業務だけでなく、公営住宅の管理を担当していますので、この辺りは大きな自

治体とは少し違うかもしれません。

現在、都市計画グループでは、お隣の泉佐野市と熊取町西地区のまちづくりを進めています。開発指導グループでは、平成二五年度から二七年度まで三か年において全庁で取り組んでいた転入・定住促進策として、住宅リフォーム補助、中古住宅取得費補助を担当していました。

住宅リフォーム補助は好評により今年度も継続しています。建築グループでは、平成二二年に町営住宅の建替えが完了し、現在は、公共施設の耐震化を継続的に進めているところです。

今回は建築物の耐震化への取り組みについて、お伝えしたいと思います。

◆建築物の耐震化への取り組み

町有施設の耐震化には早くから取り組んでおり、特に学校施設については耐震化率一〇〇%を達成しています。また、平成二七年度には、非構造部材の耐震化も完了しました。

平成二六年度には役場庁舎の耐震改修を実施、今年度末には町立保育所の耐震化も完了しますので、町有施設については耐震化率一〇〇%まであとわずかなっています。

一方、民間住宅の耐震化については、府下の他市町村と同じように、耐震診断

をはじめとする補助制度を設けており、自治会へ出向いての出前講座や外部講師を招いての耐震セミナーなどを通じて、普及・啓発に取り組んでいます。思ったように申請件数が伸びないのが現状です。今年の熊本地震の後もそうだったのですが、大きな地震があると、その後、しばらくの間、住宅の耐震化についての問い合わせが増えることがあります。おそらく、地震直後のテレビニュースなどで、実際の被害を目の当たりにすること、意識の変化があったのではないのでしょうか。

住宅の耐震化を進めるためには、補助金の増額など助成制度のさらなる拡充が不可欠と思いますが、住民の皆さんの意識を変えていただくことも必要であると考えようになりました。

◆企画展「大地震、命を守るために今できること」の開催

今年は、初の試みとして、過去に国内で起こった大地震の被害を具体的に見て、知っていただくことで、住宅の耐震化について考える機会としていただくことを目的に、大阪府岸和田土木事務所との共催で、大阪建築物震災対策推進協議会の後援を受け、企画展「大地震、命を守るために今できること」を開催することになりました。

教育委員会の協力で、テレビの「なんでも鑑定団」でおなじみの澤田平さんから江戸時代の地震に関する資料をご提供いただける幸運にも恵まれ、八月下旬の開催に向けて準備を進めてきましたが、展示資料を集めるために各地の資料館や博物館を訪問し、所蔵されている資料を見せていただいたりしているうちに、私自身に意識の変化がありました。

当初、いわゆる普及・啓発を目的とし



て進めてきた企画ですが、数多くの写真や映像、震源となった断層の現場などを見ているうちに、理屈ではなく、ただ単純に過去の大地震の姿を見て欲しい、そして、その時そこに生きた人たちのことを想像して欲しい、という思いになりました。

「企画展」でも展示したのですが、一九四八年の福井地震の後、福井市が発行した「福井大震災画報」に当時の福井市長、熊谷太郎氏が寄稿された「焦土に立つ」という文章があります。ここで、一部を紹介します。

昭和二十三年六月二十八日

突如として、この国の誰もが未だかつて味わったことのないほど烈しい地震が我々の郷土を襲った。激浪にもまれた船底の如き庁舎から辛じて屋外にとび出たときは、いつも見慣れた道ばたの土蔵はすでに跡かたもなく潰れていた。

濛々たる土煙に赤く濁った街の空
地面を走るいくすぢもの生々しい地割れ

つぎつぎに運ばれていく負傷者のなかには、ほんのすこし前笑いをかわしたばかりの知りびともまぢっている。すべては一瞬の出来事であった。

傾き倒れた街のそこかしこから燃えあがった煙りが一団の炎となって全市を包むころ、暗黒の夜がおとづれて来た。そして、一夜あけた暁に見渡す街には、三年前の戦災におとらぬみじめな姿が到るところにくりひろげられていたのである。

我々是我々自身の冷酷な運命を思うとき一掬の涙なきを得ない。けれども我々は決してひるまない。天は自ら助るものを助く。我々是我々の将来の幸福を希うが故に、百難屈せず、百折撓まず、重なる災厄を好箇の試練とたのんでひたすら復興再建の大道を萬進するのである。（福井大震災画報）昭和二三年八月三十一日 福井市発行

最後に不退転の決意が感じられる名文ですが、決意の前には一掬（両手ですくうほど）の涙があったのです。大地震の中を生きた人たちのことを思うとき、今、私たちがすべきことが見えてくるのではないのでしょうか。

「命を守るために今できること」について考え、伝えていかなければならないと思いを新たにしています。

馬場 高章（うまばたかあき）

熊取町事業部まちづくり計画課長

一九六五年 高石市生まれ

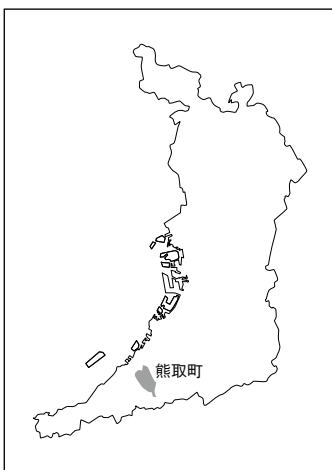
一九八九年 金沢工業大学工学部建築学科卒

一九八九年 熊取町入庁

事業部や教育委員会などで、宮繕業務に携わる

二〇一五年 現職

趣味はサクラマスのルアー釣り



理事会報告

文責 本会事務局

日時 九月二十日(水)十六時〜十七時三十分
場所 本会会議室

出席 理事三五名 監事二名 名誉会長他六名

(1) 八月の当期経常増減額は、収入五、五六八、五一〇円、支出一一、五八二、三九六円、差引△六、〇一三、八八六円で、本年度累計の収支差引は三一、七一九、七四三円を報告して承認されました。

正会員会費収入の充足率が九四％と高率ですが、一五〇名減少を想定した予算額を対象としていることからです。

事業系では、CPD登録費が順調な収入状況であること、耐震評価業務が前期で一七件、申請予定八件と好調です。

全体では、前期の事業収支は約五〇％の充足率です。

(2) 大阪建築コンクール運営規程(案)

六月度理事会からの継続検討として、次の二つの案について意見交換を行いました。

規程案1「審査員の所属する組織から応募がある場合、同作品の審査や選考等に加わらない」

規程案2「審査委員長及び審査委員は、応募者が在籍する企業・法人等に所属していないこととする」

規程については、団体のコンプライアンスを考慮して、賞の価値と透明性を高く保つ方向で検討することは役員一同一致するところとす。

議論の結果、今年度は当問題が影響しない審査員構成ができることから、結論を急がず担当委員会に持ち帰り、対象条項だけでなく、コンクール規程全体を見直して継続審議することといたしました。

編集後記

荒木 公樹

今回の編集後記では、『建築人』の発行の仕組とその目指すところについて、ご紹介いたします。この紹介の目的は、『建築人』が情報伝達に留まらず、読者の皆さんの大切な参加の場であることを伝えるところにあります。

『建築人』は、印刷費・執筆料等の経費(支出)を広告費・ギャラリ作品の掲載費(収入)でまかなう方法で発行されています。昨年度(平成二十七年)の『建築人』にかかる予算は八五〇万円で、本年度も同額の予算で発行が続けられています。この発行方法は、大阪府建築士会の渡辺節初代会長が提案した方法です。この方法の目的とするところは、編集の独立性つまり編集の自由を保つことでした。(『ひろば』一九六五年一〇月号渡辺節「将来に飛翔するひろば」)

『建築人』が現在の構成となったのは、大幅なリニューアルを行った、四年半前の二〇一二年四月号からです。それ以前の『建築人』は、広告収入の減少から毎年数百万円単位の赤字決算を続けていました。リニューアル前の誌面は、会報誌として自然な流れですが、活動報告がメインで読み物としての面白さに欠けるという課題を抱えていました。また、限られた人材で編集を効率化する具体策も求められていました。

そこで、リニューアルに際して、二つのテーマを設定しました。一つ目のテーマが『建築士の会の知の体現』です。『建築人』は、会員だけでなく、社会と会をつなぐ役割を担っています。社会に対して建築士の知を体現する媒体としての役割があり、質の高い

誌面づくりは、そのまま建築士会を表すと考えます。そのため、『建築人』は発行とともに、建築士会のホームページに全ページをアップし、最新号及びバックナンバーを公開しております。二つ目のテーマが『建築人』にかかる決算の黒字化です。紙媒体として毎月の発行を継続させるためには、赤字の大きな要因であった印刷費の削減を図ることが不可欠でした。そのために、大幅なページ数の削減とともにカラーページの絞り込みを行いました。近年多くの会報誌で実施されている電子書籍化という方法も考えられましたが、直接手にとって読む「紙の本」という形態にこだわりました。そして、末永く大切に持ち続けてもらえる誌面づくりの実現を目指しました。

『建築人』では、会報誌であることから全国を対象とすることや利益を生み出すことを第一義とする必要がありません。そのため、大阪・近畿だからこそできること、つまり地域に根ざした誌面づくりを大切にしています。社会に対して開かれた場とすることがわれわれの会では最も必要なことであると理解しています。そのためにも連携や参加の場つまりプラットフォームづくりが大切です。『建築人』が連携のきっかけとして、建築士だけでなく、市民・大学・行政・事業者等多くの人を巻き込んでいく手段として活用されることを望んでいます。

会報誌は、毎月の発行を維持することに傾倒するくらいがあります。一方、会報誌は時間の経過により資料価値の高い貴重なストックとなる可能性を忘れてはなりません。このことから、建築同様永く残り続けるものとして、言葉の一つ一つを丁寧に拾い上げる姿勢を大切にしてまいりたいと考えます。

建築物耐震評価業務のご案内

本会事務局

本会では、「建築物耐震評価委員会」を設置し、申込者の行った耐震診断や改修計画の妥当性を判定する評価業務を行っており、(一財)日本建築防災協会の「全国耐震ネットワーク委員会」に登録しております。

建築物耐震評価は、ぜひ本会にお申込下さい。

【対象建築物】

建築物の所在地(全国)、公共・民間の別、規模、構造種別は問いません。

※本会会員 評価手数料一〇％割引

安価な評価手数料の設定をしており、本会会員は、一〇％割引します。

※スピーディーな審査

可能な限り短期間で評価書を発行できるよう努めております。

【実績事例】

・某ホテル(〇階建 不整形 SRC三万八千㎡ 耐震診断(三次診断)・改修計画評価

・申込から委員会評価修了まで約六〇日間

【学識委員】(敬称略)

大野義照(大阪大学名誉教授)
坂 壽二(大阪市立大学名誉教授)
倉本 洋(大阪大学教授)

土井 正(大阪市立大学大学院准教授)

詳細は本会ホームページをご覧ください。

【問合せ・申込】

公益社団法人 大阪府建築士会事務局



toccata



toccata (トッカータ) の語源は、イタリア語の toccare = 触れる
 操作はタッチパネルに「触れる」だけ 吐水時はライトで手元を照らします
www.san-ei-web.co.jp 株式会社 三栄水栓製作所

SANEI



同志社京田辺会堂 ファセット・スタジオ・ジャパン一級建築士事務所

同志社京田辺会堂は、幅員6mの構内通路で分断された2つの敷地に、礼拝堂と新島襄関連資料展示室が主用途の「宗教施設」を設計する事が求められた。国際コンペ要項で、当初から私が気になったのは、そもそも「宗教施設」は必要なのか、という事。キリスト教伝道が主たる目的でもない同志社大学で、キリスト教徒ではない学生が多数通うキャンパスで、自分とは接点が見出しにくい「宗教施設」そのものを前面に打ち出した建築は、学生のシンボルにはなり得ない。だから、同志社京田辺会堂を、キリスト教徒のシンボルからこの大学に通う学生のシンボルにするためには、学生に、もっと身近な建物になる工夫が必要だと考えた。そこで、敷地を分断する構内通路に面し、二つの建物の大開口を向き合わせることで、構内通路を歩くだけでも、新島襄関連資料展示室にあるラウンジで談笑していても、自然と礼拝堂内部の活動を目にし、礼拝堂への興味を喚起する機会を促す平面計画とした。礼拝堂側からも、大学キャンパスを歩く友人、ラウンジで談笑する友人が自然と目に入ってくる。幅員6mの構内通路を同志社京田辺会堂施設群の一部に取り込む事で、礼拝堂と共に起こる日々の光景は、学生達のキャンパスライフに自然と溶け込んでいく…。礼拝堂が特別な存在ではなく、気がつけば、いつもキャンパスライフの中心には同志社京田辺会堂がある。「宗教施設」がそれくらい日常に溶け込んでいる光景を創ってみたいと思ったのである。

撮影：阿野太一 第60回大阪建築コンクール大阪府知事賞受賞作品

■プロフィール

柏木 由人（かしわぎ よしひと）
1973年 大阪府生まれ。
慶應義塾大学の商学部で学んだ後、慶應義塾大学大学院の政策メディア研究科にて建築・都市デザインを専攻。大学院卒業後、Renzo Piano Building Workshop(イタリア)、Engelen Moore(オーストラリア)勤務を経て、2008年 Facet Studio(オーストラリア)、2009年 ファセット・スタジオ・ジャパン一級建築士事務所(大阪)を設立。主な受賞歴に、Architecture Asia Award(アジア)／新人賞、Taipei International Design Award(台湾)／大賞、Interior Design Excellence Awards(オーストラリア)新人賞がある。

■建物データ

建築主：学校法人 同志社
設計：ファセット・スタジオ・ジャパン一級建築士事務所
施工：吉村建設工業
所在地：京都府京田辺市
用途：大学
竣工：2015年3月
構造規模：RC造、一部鉄骨造 2階
敷地面積：562,687.47㎡
建築面積：1,207.66㎡
延床面積：1,194.24㎡

